

がんと医薬とノーベル賞

抗がん剤の進歩により、「不治の病」というがんのイメージは近年すいぶん変わりつつあります。しかしその反面、超高額な医療費といった、思わぬ問題も出てきました。2015年のノーベル生理学・医学賞は、アフリカ大陸で猛威をふるう「オンコセルカ症」（河川盲目症）から数億人以上の患者を救ったという、寄生虫の治療薬「イベルメクチン」の開発者、大村智博士に与えられました。

実用的な医薬品に関するノーベル賞は出難いとも言われ、医薬品開発に贈られる「ノーベル生理学・医学賞」は実に27年ぶりとなりました。期待された新薬が、数十年後に重大な副作用を持つものであることが発覚する「評価のゆらぎ」が、長年医薬品開発者に授与されなかった大きな要因となります。本講座では、現代の製薬企業の方針に関する諸問題や、薬価高騰問題、大村博士がノーベル賞を受賞した理由とその意義について、元医薬研究者の立場から読み解き、考えてきます。

講師 佐藤 健太郎（サイエンスライター）

茨城県出身。東京理科大学、東京工業大学大学院（修士）卒業の後、国内の製薬企業で医薬品研究に携わる。そのかわら、ウェブサイト「有機化学 美術館」を立ち上げ、化学に関する情報を発信してきた。2007年に退職、独立してサイエンスライターとなる。2009年より3年間、東京大学理学系研究科化学専攻にて特任助教（広報担当）に就任、東大の化学系の研究内容発信に携わった。現在は再びフリーの立場で、化学・医薬関連の記事・書籍執筆を行っている。2010年科学ジャーナリスト賞、2011年第1回化学コミュニケーション賞（個人）を受賞。著書に「医薬品クライシス」「炭素文明論」（いずれも新潮社）、「医薬品とノーベル賞—がん治療薬は受賞できるのか?」、「ふしぎな国道」「世界史を変えた薬」（いずれも講談社）など。



開催概要

- 日時：2017年11月27日（月）19:00～20:30（18:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1000円（千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください。）
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて、
①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：中澤 nakazawa-hiroyuki@shopro.co.jp / 並木 namiki-yuri@shopro.co.jp
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4 TEL：03-3502-3342 / FAX：03-3502-3341